

学級目標に向かって協働し合う意欲を高める学級集団の育成

～日常と行事を関連付けた継続的な取り組みを通して～

前橋市立宮城中学校 轟 和也

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領総則（29年度告示）で、中学校の総則として初めて「学級経営」という言葉が用いられ、小・中・高等学校を系統立てた学級経営の充実の重要性を示している。気になる生徒や支援を要する生徒など多様な生徒がいる義務教育段階の学級において、中学校学習指導要領解説特別活動編（29年度告示）では、「様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと」をできるようにすることなどが求められている。

本学級の生徒は、個性豊かで素直で活発な生徒が多い。一方で就学してから変化が少なく固定的な人間関係の中で過ごしてきたため、主体性に欠ける面や幼さが残り自己中心的な言動をする面があり、学校生活や学習への意欲が高まらないことが課題となっている。

これまでの学級経営を振り返ると、どの学級でも学級目標を決めたり学校行事に向けて協力して準備や練習に取り組んだりしてきた。しかし、日々の授業や生徒指導に追われ、継続して学級目標を意識させたり、行事と行事を関連させて学級集団を向上させたりする取組まで手が回らないのが現状である。

そこで本研究では、学級目標を継続的に意識した学級経営を行う。その際、学級目標を意識した日常的な関わりを充実させ、行事と学級目標、行事と行事をつなぐことで、学級目標に向かって協働し合う意欲を高めようと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級目標に向かって協働し合う意欲を高める学級集団を育成するために、学級目標を意識した日常的な関わりを充実させ、行事と学級目標、行事と行事をつなげることの有効性を、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

学級目標を意識した日常的な関わりを充実させ、経験学習サイクルを用いて行事と学級目標、行事と行事をつなげることで、学級目標に向かって協働し合う意欲を高めることができるであろう。

そのために、以下の手立てを講じる。

1 学級目標を意識した日常的な関わりの充実

教師が学級目標を意識し、生徒同士の関わりを深める活動を意図的に設定することで、生徒の学級目標を意識して協働的に関わろうとする意欲を高める。

2 行事と学級目標、行事と行事をつなげる活動の工夫

経験学習サイクルを用いて学級目標を基に行事の目標を設定し、行事で経験して得た学びを生かして次の行事の目標を設定することで学級目標に向かって課題を解決しようとしながら前向きに取り組む意欲を高める。

Ⅳ 研究の内容

本研究では、第2学年（生徒数34名）の学級において実践を行った。

1【学級目標を意識した日常的な関わりの充実】

(1) 実践の概要

4月の学級開きで教師のクラスに対する思いを伝えた。生徒も理想のクラス像を一人一人が考え、それを基に学級会を行った。その結果、本学級の学級目標が「PEACE」に決定し、学級目標を達成するためのキーワードを「みんなで前向き」とした（図1）。この学級目標を意識して関わる活動と生徒同士の関わりを深める活動を教師が意図的に設定した（表1）。

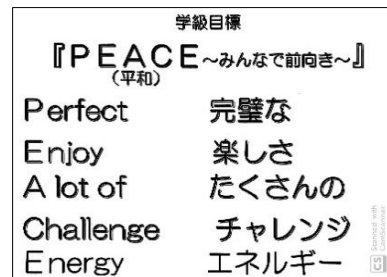


図1 本学級の学級目標

表1 学級目標を意識した日常的な関わり

学級目標を意識して関わる活動	
<p>①ビーイング</p> <p>ビーイングとは… 用紙の中央に象徴的なイラストを描き、そのイラストの内側に「学級目標が達成できる言動（肯定的なこと）」、外側に「学級目標が達成できない言動（否定的なこと）」を書いていく。 活動中は肯定的に話を聞くなどのルールのもとグループや全体で進めていく。</p> <p>○本学級の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「みんなで（人型）」「前向き（星型）」 ・掲示することで学級全体の共通認識として日々確認する。 	<p>本学級のビーイング</p>
<p>②モデリング</p> <p>モデリングとは… 何かしらの対象物を見本に、そのものの動作や行動を見て、同じような行動をすることを（心理学的）モデリングと言う。 人の成長過程では、モデリングにより学習・成長するとされる。</p> <p>○本学級の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で学級目標を意識している場面を生徒や教師が伝える。「協働し合おうとしている（みんなで）」 ・「目標に向かおうとしている（前向き）」 ・伝える場面 生徒＝帰りの会の1分間スピーチ 教師＝学級通信やその都度全体で ・伝え合うことで他者の良さを共有し、自身も取り組もうとする。 	<p>学級目標完成！！</p> <p>Perfect 完璧な Enjoy 楽しさ A lot of たくさんの Challenge チャレンジ Energy エネルギー</p> <p>2 - B 34 PEACE</p> <p>学級通信</p>
<p>一分間スピーチで他者の良さを伝えている文章</p>	
生徒同士の関わりを深める活動	
<p>①振り返りを伝え合う活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期始めや学期末などにテーマを基にペアやグループで自分の思いや考えを伝え合う時間を設定する。 <p>○本学級の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み・冬休み（グループでサイコロトーク） ・学期を振り返って（グループでサイコロトーク） ・定期テスト（ペアでの交流） 	<p>サイコロトークの様子</p>
<p>②授業内で直接かかわる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任の授業内（学活・道徳）で直接関わる活動を意図的に設定し、他者理解と関係性の向上を図る。 <p>○本学級の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学活：「私は誰でしょう」「ジョハリの窓」など ・道徳：「自分って何だろう」など 	

(2) 結果と考察

日常的な関わりとしてビーイングをしたり、各授業の中で協働していることなどを帰りの会で伝え合ったりして、学級目標を意識しようとする姿を学級全体で共有した。すると、学級目標を意識した言葉をかけ合う姿が多く見られるようになった。また、生徒同士の関わりを深める活動を取り入れることで固定的であった人間関係の交流の幅が広がり、他者の良さにも目を向けるようになった。その結果、授業や行事など様々な場面でより自然に交流する姿が多く見られるようになった。

2【行事と学級目標、行事と行事をつなげる活動の工夫】

(1) 実践の概要

行事と学級目標、行事と行事をつなぐ手立てとして「経験学習サイクル」*1を用いた。自分が実際に経験した事柄から学びを得ることを「経験学習」と呼び、単に経験するだけでなく経験を次に活かすためのプロセスが「経験学習サイクル」である。「経験学習サイクル」は「経験→省察→概念化→実践」という4段階で構成される。経験学習サイクルによって、結果の成功・失敗に限らず、得た学びを次に活かそうとする前向きな姿が期待できる。また、得た学びは他の事象に活かすこともできる。

本研究では、経験学習サイクルを体育大会と文化祭に位置付けた(図2)。まず、学級目標を踏まえて体育大会の目標を立てる。その目標を基に体育大会の種目の準備や練習をして当日を迎える。体育大会で経験したことを基に振り返り、そこから得た学びから次の文化祭の目標を設定する。この目標を基に、文化祭の学級劇の準備や練習を進め、文化祭で経験したことを振り返り、そこから得た学びを次に活かしていくというように進めていった。

経験学習サイクルを行う際には学級目標を常に意識するようにした(図3)。体育大会の目標は学級目標を踏まえて作成し、「勝ち負けにこだわりすぎず、最後まで笑顔で全力で楽しむ」となった。体育大会を終え、体育大会の目標を振り返ることで学級目標にも立ち返って考える。次の文化祭の目標は学級目標を踏まえつつ、体育大会で得た学びも活かして設定し、「団結力を高め最後まで2Bらしく笑顔で全力で」となった。そして体育大会同様、文化祭の目標を振り返ることで学級目標にも立ち返って考えた。

行事の練習や準備の段階では、種目や役割同士での関わる場を設定した。付箋を使って順調な点や課題点を書き込み、行事の種目や役割ごとに交流してどのように解決していく

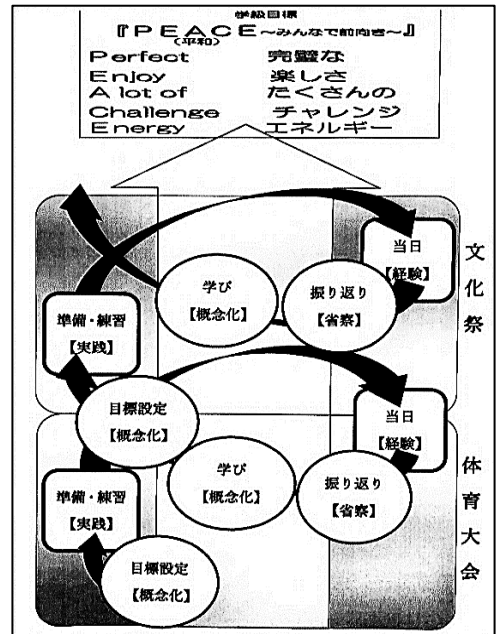


図2 経験学習サイクル

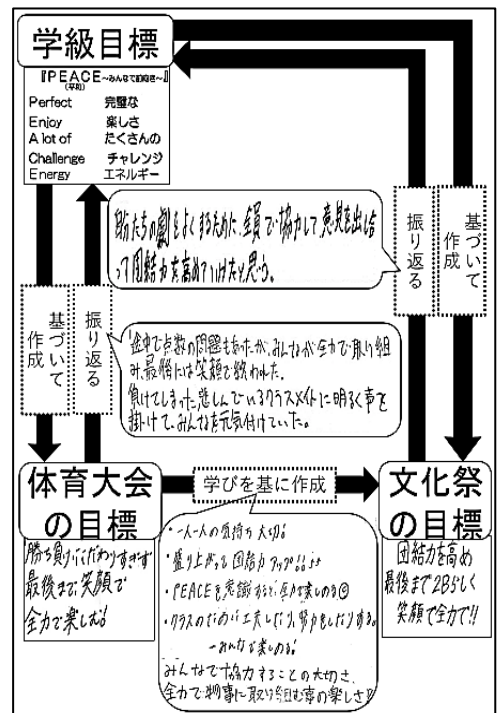


図3 学級目標と経験学習サイクルの関連

かを検討した。その結果を掲示して、いつでも確認できるようにした（図4）。



図4 文化祭の役割ごとの交流と掲示物

(2) 結果と考察

図3にある生徒の記述が振り返りや体育大会で得た学びである。体育大会当日は、うまくいかない場面が多くあったが、生徒同士が体育大会の目標を意識した言葉をかけ合う姿が見られ、優勝以上の達成感や団結感を得られた。「団結力」「クラスのために工夫・努力」「全力で取り組むことの楽しさ」など体育大会から得た学びと学級目標を踏まえ、文化祭の学級劇に向けて目標を設定した。どうしたら「2Bらしい」表現ができるか生徒同士で具体的な表現や内容まで相談し合い、他の役割ともアドバイスし合って取り組む姿が見られた。本番後には、笑顔で全力で終えた達成感を味わっていた。

また、練習や準備の段階で種目や役割同士で関わりながら課題を検討する場を設定したことで取り組むべきことが明確となり、自分達で課題を解決しようとする意欲が高まった。

このように経験学習サイクルを用いて行事に取り組んだ結果、生徒Aの体育大会と文化祭の振り返りを比べると、目標に向かって取り組むクラスメイトへの理解や自身の達成感が深まっていることが読み取れる（図5）。また、「もっとクラスに貢献したい」や「新しい役割にもチャレンジしたい」など、前向きな意欲の高まりも見られた（図6）。

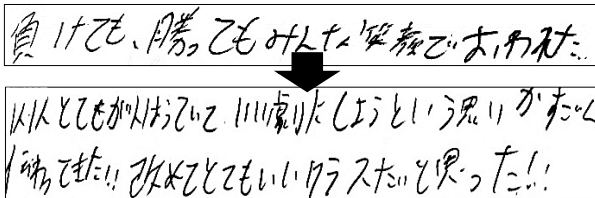


図5 生徒Aの振り返り

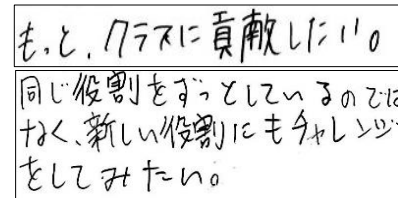


図6 文化祭の振り返り

V 研究のまとめ

1 研究の成果

7月と11月にアンケートを行った。以下の括弧内は11月のアンケートで4段階のうち、「そう思う」と答えた生徒の割合と7月と比較して向上した割合を表している。実践とアンケートの結果から、以下の成果があったと考える。

- 学級目標を意識した日常的な関わりを充実させていったことで生徒同士の関わりが深まり、学級目標を意識してみんなで取り組もうとする意欲が高まった。アンケートでも「自分のよさ、他者のよさを見付ける」点が向上した（80%（11%増））。
- 経験学習サイクルを用いて行事と目標、行事と行事をつなげる活動を設定することで、学級目標に向かって前向きにチャレンジしようとする意欲が高まった。アンケートでも

「目標の実現を意識する」「学んだことを振り返り今後のクラスの生活をよりよくしようとする」点が向上した（93%（30%増））。

- 二つの手立てを行ったことで、学級目標に向かってみんなで前向きに取り組もうとする意欲が高まった。「クラスや自分の成長を実感できる」（80%（26%増））、「クラスで同じ目標に向かって取り組んでいる」（90%（18%増））点が向上していることから、研究主題の学級目標に向かって協働し合う意欲を高める学級集団に近づいたと考える。

2 今後の課題

- 学級目標を意識した日常的な関わりの一つ一つの取組がどのように効果があったのか、個別の取組の変容も考察する必要がある。
- 経験学習サイクルを年間を通した学級経営に位置付け、生徒主体の活動にすることで、より協働し合う意欲を高めることが期待できる。

VI 授業案

第2学年 議題名 学級劇成功のために、課題の解決策を話し合おう

指導計画

	活動時間	主な活動内容
事前	学級活動	・文化祭学級劇のテーマを話し合う。
	学級活動	・体育大会の経験や学びを基に文化祭の目標を話し合う。
	帰りの会（週1回程度）	・各役割で順調な点、課題点を振り返り、解決策を考え練習に活かす。
	放課後	・計画委員が集まり話し合いの進め方や方向性等を確認する。
本時	学級活動	本時の学習参照
事後	学級活動	・話し合った内容を教室に掲示しいつでも確認できるようにする。 ・文化祭終了後に文化祭全体の振り返りをする。

本時のねらい

自分の役割や他の役割の順調な点・課題点を話し合い、課題の解決策を考えることで現状の課題を克服し、学級劇を通して学級全体を向上させようとする意欲を高める。

主な学習活動	指導の工夫	生徒の姿
議題を 全員で確認	○計画委員による輪番制で進め、自主的に取り組む意欲を高める。 ○体育大会の写真を映し必要感を高める。	
役割ごとに確認	○他の役割へ伝えることなどを確認させ、伝えることを明確にし、活発に交流できるようにする。	
他の役割との 交流	○他の役割の生徒に伝える生徒と残る生徒に分かれ、様々な役割からの意見やアドバイスを知ることができるようにする。	
各役割で集約	○各役割で他の役割から出た意見やアドバイスを共有しまとめる。	
全体発表・検討	○全体で検討することで、学級全体で解決していく意欲を高める。	
各役割で 解決策決定	○他の役割と交流したことをふまえ、今後気を付けて取り組むことを決める。	
全体発表	○決定したことを発表することで、学級全体で共有し、役割に責任感をもたせる。	
振り返り	○今日の話合いや決定したことを振り返る。	
【学びに向かう力、人間性等】これまでの練習の順調な点や課題な点をもとにして、学級劇成功に向けた解決策を考えようとしている。（話し合いの様子・振り返り）		

<参考資料>

※1 松尾 睦：『職場が生きる 人が育つ「経験学習」入門』、ダイヤモンド社（2011）